



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください http://www.amano-shingo.info

「病膏肓に入る」 北朝鮮の妄動

諺で云う「病膏肓に入る」とはもはや手の施しようのない病氣や悪癖を云う。

恰も今日の北朝鮮の政治手法は「駄々っ子の無い物ねだり」に等しく、しかも手に入れるためには公然と匕首を振りかざす、譬えその行為が「亡国的」と非難されようと、「空腹」からの脱却は全てを超越するらしい。

勿論、私達は北朝鮮の人々の「食うに物なく、住むに家のない」惨状に憐憫の情を禁じ得ないところではあります。もとより北朝鮮の誰もが金正日という似非指導者の魂胆を知ったはずで、にも拘らず「將軍」を取り巻く極く少数者によって作られた「亡者の砦」は未だ覆すには至りません。

この夏の台風によって3万余の人々が亡くなり、農業生産高は予定収穫量の半分を喪失、愈々国民の疲弊は頂点に達したと報道されておりました。独り糖尿を患うも相変わらず肥満を維持する金正日の狂気は一体何時まで続くのでしょうか？

しかし、今回の「核実験」宣言はこれまで「親北朝鮮」の路線を固持してきた中国・韓国も「病膏肓に入る」を察知して態度は急変、国連決議に同調したところでもあります。(10月8日現在) しかるに10月9日、まさか国際的「駄々っ子」が核実験のボタンを押してしまうとは思いませんでした。安倍総理が中国とのトップ会談を終え北京空港を離陸した瞬間をねらって実行、世界から一斉にブーイングを浴びたのです。

処で「核」の脅威は勿論だが、それ以上に、わが国にもたらされる不測の事態も想定し、その対応について今から研究しておかねばならな

いと思います。嘗てルーマニア市民が決起して独裁者チャウシェスクを打倒したように、遠くない将来、この国にも大衆の怒りのドラマが上演されるでありましょう。実はそれらが民族的鎖国政策を堅持してきた日本の厳しい選択の時が来るのであります。

金体制が崩壊した途端、2千万の北朝鮮国民は雪崩を打って中国・韓国に難民として国境を越えるでしょう、しかしご案内の通り昭和30年代「世界の楽園」の謳い文句に引きずられ、10万人の「在日」の方々が帰国しましたが、彼らの多くは温かな親戚のいる、言葉も解る故郷「日本」への帰国を選択するでしょう。その数はこれまで拒み続けた東南アジアの難民の比ではありません。

その時こそ政府と国民にとって避けられない「決断」が求められるのであります。

橋本三十郎はいま。

今年の仲秋の名月は何処に旅だったのか、9月末から10月にかけて殆ど星空を見ることはありませんでした。その日も霧雨になった僅かな時間を目論んで執拗に散歩することを強要する家内にほだされて渋谷家を出ると、信号待ちの高岡基さんに出会ったのでした。

彼は小さな劇団を主宰し、自ら脚本も書く、数年来の顔見知りの間柄、それ故市内の若者たちの舞台を度々見る機会を頂いてきました。その彼が会話の途切れに、何気なく三十郎さんのその後の様子を伝えてくれた。

橋本三十郎、本名棚橋信子は市民劇団の中では白眉の俳優でした。

6年前、高岡さんの紹介でサークルナートホール3階、そこは物置かと見間違えほどの狭隘な舞台でした。若者に交じって私は薄暗い客席に押し込まれて開演を待っていた。

筋書きに固執しなければその舞台は中々面白く、配役も持分のなかで一所懸命演じていた。その中で私の眼差しはひとり大きな演技をする「老婆」の役者に注ぎ込まれていました。

幕が下り、会場の出口では役者さん達が全員並んで客を見送る。勿論私もその独りだが、敢えて老婆に声をかけた、やはり「三十郎」は女性、しかも意外に物静かな人でした。

翌日、家内を同伴して再び観劇と洒落た。彼女の舞台は驚きとともに新鮮な感動を私達に与えました。

数週間後、高岡さんの伝手で彼女と食事をご一緒させて戴きました。

この時、彼女の略歴を知った、浜松北高校を卒業して県立薬科大学に学び薬剤師となつて県立総合病院に勤務しているという。訥々と語る口調からは予想外の履歴、同時に夢想すらできないあのエネルギーシユな舞台、妻もまた一遍に彼女のファンになったのでした。

しかし間もなく棚橋さんは自身の夢に向って挑戦していきました。

総合病院を退職して上京、遂に私達の視界から消え去ってしまいました。

高岡さんはもとより私達が棚橋さんのファンであることを承知の上で、「今、彼女は山口大学医学部の学生です」という。

既に不惑(40歳)を過ぎた彼女が長い間抱き続けた自身の夢に向かって東京の予備校に通い、みごと国立大学の医学部に進学したとは、驚き以上の感動でした。「無医村」に細い蠟燭としておのれの身を焼きながら光を点す仕事にと頑張る彼女に心からの拍手を送りご健闘をお祈りします。

西奈と瀬名文化の香りゆたかな地(1)

「意外」と言えば誠に失礼ではあります。この西奈地域は本市の中でも極めて「文化」意識(程度)の高い、即ち、教養豊かな人々が多く住む地域と云えるでしょう。

遠目から判断するに長尾川流域の農村地帯として発展してきた西奈地区は本市の田園地帯、それゆえ「文化」とはかけ離れた世界と思われていますが、その実、西奈地域は多様な歴史の遺産を種としてここから素晴らしい文化の芽を発芽させてきました。

行政の立場からも例えば「リンク西奈」(西奈公民館・図書館の複合施設)の建設の際、その原動力になった地元の人々の熱意に対し、私達は限りある予算の中から存分に斟酌しなければなりません。こうして誕生した「リンク西奈」は図書を愛する「櫻の会」をはじめ多くの文化意識をもつ人々の活動の舞台となっているのです。

そこで、本編では数回に分けて、この文化の香り豊かな町・西奈の歴史を紐解いてみたいと思います。

瀬名遺跡

10数年前、国一バイパス建設のため埋蔵文化財調査が行われ、二千年前の水田跡をはじめ、木棺や人骨などが出土し、これを「瀬名遺跡」と命名しました。

実はこの瀬名地域だけでなく草薙

方面にもこれまでに多数の埋蔵文化財が発見されており、このことは西奈から草薙にかけて、日本の黎明期ともいえる遙か以前から人々が定住していたことを証明するものです。殊にこの遺跡からは墨痕鮮やかに「五百原・西奈」と書かれた木簡が発見されており、このことから私は次のように想像します。

七世紀、清水区の秋葉神社近くに住み、この界隈を統治していた庵原君臣は、中大兄皇子(後の天智天皇)の要請に応えて、1万人余を「百濟」応援のために朝鮮半島南部に派遣した、所謂「白村江の戦い」の当事者ですが、「五百原・西奈」の表示は即ち庵原君臣の支配下にこの西奈地域も入っていた証しであると私は考えます。

明治22年、長尾川の東側、「平山」、「長尾」、「瀬名」、「瀬名川」を纏めて庵原郡西奈村が誕生しました。この時、敢えて「しな」と呼称した理由は平山や長尾が「瀬名」を意識し、これを嫌ったからと考えられます。

一寸一言

私の雑記帳から

豆腐と納豆

私達の食生活で最も身近な食品の一つに「大豆」がありますが、今回は、これを加工した「豆腐と納豆」についてムダな知識かもしれないが記しておきます。

何時だったか、私はこの二つの食品に名付けられた「名称」に疑問を抱いたのです。即ち「豆腐と納豆の名称は逆」ではないだろうか? 豆を腐らせて作ったのが臭い納豆、豆を納めて作ったのが豆腐では? ・ ・ ・ その昔、中国より伝来した時点で

人々は誤って名付けてしまったものと勝手に理解した私は、爾来固く信じ、折にふれてこの自説を周辺に吹聴してきたのでした。

如が、最近になってこの食品の出生の秘密を知るところとなりました。即ち: . . .

お寺で出納事務を行う場所を納所といいますが、奈良時代、納豆の製法が中国より伝来、その際多くはこの納所で行われたことから寺納豆といわれ、往時は今日の浜納豆に似た塩辛く乾燥した食品でしたが、中世になって今日の「糸引き納豆」が誕生したとのことです。それ故、納所で大豆を加工して作る場所から、「納豆」と命名されました。

一方、豆腐の「腐は腐る」という意味のほか、ヨーグルトのように液体でも固体でもないものを表現する時に用いる漢字です。それ故、大豆からできたその形状を表現して「豆腐」と名付けたのでした。以上最近私が知った知識です。



彩時記

ゆっくり、優しく、暖をとる。

十一月に入り、朝晩はめっきり冷え込むようになりました。そろそろ暖房器具を出すお宅も多いことでしょう。

日本人は、昔から様々な方法で暖をとる工夫をしてきました。調理器具や灯りの役割も果たしていた囲炉裏、枕草子にも登場する火鉢。家族だんらんにかかせない炬燵。明治以降は、燃料が薪や炭から灯油、電気へと進化し、現在のエアコンや床暖房へと続いています。

最新の暖房器具で、即座に部屋を暖められるのはとても便利なことですが、過剰な暖房には注意したいもの。身体の体温調節機能が低下してしまいますし、暖房している部屋と、暖房していない廊下やトイレ、浴室との温度差も身体に悪影響を与えます。時には、昔ながらの薪ストーブや火鉢で、ゆっくりと部屋や身体を暖めてみてはいかがでしょうか。昔の暖房器具は環境にも身体にもやさしく、今話題のスローライフにもぴったり。部屋が暖まる頃には、身体はもちろん、心までほんわかと暖まっていることでしょう。

歴史講座のお知らせ

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。このSHINGO SCOPEの郷土史が好評ですのでその現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。